

高校魅力化への道

探究活動に新聞を活かす

新潟県立糸魚川高等学校

1 N I E 実践のねらい

当校では、いわゆる「グローバル人材」の育成が具体的なミッションの一つとなっている。われわれは、この「グローバル人材」を「国際社会で通用する能力とグローバルな視野を持ち、地域社会の発展のため、世界と地域をつなげていく人材」と解釈している。

また、地域の人口減、少子化に伴い、現在3学級募集となっている。そこで昨年度から糸魚川市の「高校魅力化事業」に関連し、「高校魅力化コーディネーター」による学校推薦型等の大学入試対策や総合探究活動の支援、生徒自習室の運営等を実施し、それは他の県立学校では見られない充実した内容となっている。

これらの特色を活かしながら、対象となる現2年生（令和5年度入学生）の「総合的な探究の時間」の方向性を、「自分を知る」→「世界を知る」→「未来を生きる」と設定し、授業を実施した。

昨年の「新聞を作ろう」という実践を踏まえ、2年次では「自分の興味関心から設定したテーマの面白さ、すばらしさ、意義等を他者に伝える。」との目標達成のため、「新聞を利用しよう」というコンセプトを設定し、実践を開始した。

2 本年度実践の概要

（1）R5年度1月～3月 興味関心の洗い出しと問いの設定

高校生の関心あるワード100選の中で抽出した50個のワードから自分の興味関心を見つけ、言語化し（WHY）（WHAT）の軸で深めていくワーク

「TOISAGASHI ワーク」を実施。興味関心に対する疑問を出しながら、問いへ深化させるところまで進める。

（2）4月～7月 問いに対する情報収集や今後の計画、中間発表

同様の興味関心を持った生徒同士でグループを作成し、個人の問いからグループの問いへ変容させ、問いに対する情報収集や12月までの計画立てを実施。7月末には、「中間発表会」をクラスごとに実施し、活動の整理と進捗報告をした。

（３）８月～１０月 研究や実践、調査など

立てた仮説を検証する、イベントの計画を実践する、考えた案に基づいて製作をする。アンケート調査をする、ポスターを作成する、など各グループの問いに沿った活動を実施。また、新聞のデータベースを利用した調査も実施した。

（４）１１月～１２月 プレゼンテーションレクチャー、準備、総探発表会

外部講師をお呼びし、プレゼンの目的や方法を習得したのち、発表会で実践。

３ 実践例

（１） 各フェーズの様子① =興味関心の洗い出しと問いの設定=

高校生の関心あるワード 100 選の中で抽出した 50 個のワードから自分の興味関心を見つけ、言語化し（WHY）（WHAT）の軸で深めていくワーク

「TOISAGASHI ワーク」を実施。興味関心に対する疑問を出しながら、問いへ深化させるところまで進める。



興味関心を発表し仲間探しをする様子



興味関心に対する疑問を出す練習をしている様子

（２） 各フェーズの様子②

=問いに対する情報収集や今後の計画、中間発表=

情報収集の段階では、自らの手でなんらかの情報を取るということをミッションに、企業、大学、事業者などにメールを打ったり電話をしたりという様子が見られた。学校に専門家をお招きし、直接話を聞くグループもあった。７月から１１月まで、「新潟日報データベース」、「朝日新聞 検索くん」を活用し、情報収集を実施した。中間発表会では、テーマ、テーマ概要、テーマに対する今の状態、どういう状態になるといいのか、具体的にどう進めていくのかの５観点を全班で共有した。

↓それぞれのテーマに沿った専門
家から情報をヒアリングする様子



中間発表の様子



① 課題の設定

自分や自分たちの中から湧き上がる思いから問いの設定がなされているかどうか。

② 情報の収集

ア 新潟日報データベース、朝日新聞 検索くんを利用して新聞記事 1 つ以上を発表に反映させているかどうか。

イ 反映させている情報に偏りがなく、多角的な視点で情報の収集がなされているかどうか。

③ 整理分析

ア 言葉の定義が揃っているかどうか。

イ 論理の矛盾はないかどうか。

ウ 方法の妥当性や意義を理解しているかどうか。

④ まとめ・表現

ア ポスターにすべての項目が入っているかどうか。

イ 相手や目的、意図に応じて論理的に表現しているかどうか。

(3) 各フェーズの様子③ = 研究や実践、調査など =

各グループが設定したテーマに沿った研究や実践、調査などを進めた。イベントを自ら企画運営するグループやゲームを開発し、既存のイベントで披露して感想をもらうグループ、商品開発をして販売するグループ、ポスター制作をするグループなど、32通りの様子を見受けることができた。



実施日：9/28(土) テーマ名：シン・経衰弱

自分たちで、小さい子から大人まで楽しめるゲームを開発するという目的で活動。



実施日：10/13(日) テーマ名：お new な笹寿司作っちゃおう！

自分たちで作る笹寿司で、郷土料理のイメージを変化させるという目的で活動。



実施日：10/28(月) テーマ名：旅行に行けない人たちを楽しませる！

旅行に行きにくい人にも旅行感覚を楽しんでほしいという目的で活動。

(4) 各フェーズの様子④ =プレゼンテーションレクチャー、準備= 11/11(月) 6限 14:50-15:45 実施

レクチャー内容：

- ① プレゼンテーションをする目的の共有
- ② スライド作成においてのコツ

話を聞いてくれた相手の心を動かすのがプレゼンテーションであるという基礎基本をご教示いただくことを目的とした時間だった。質疑応答の時間では活発な意見交換が成され、生徒の興味津々な様子を見て取ることができた。また、スライド作成におけるテクニックも教わった。



プレゼンテーション講師
株式会社 MOVED
渋谷 雄大 様

当日の様子



4 成果

(1) 「成果発表会」の概要

日時：12/17(火) 5, 6限 13:40～15:30 実施

場所：糸魚川高校大体育館

目的：

- ・自分の興味関心から設定したテーマの面白さ、すばらしさ、意義等を他者に伝えること

- ・新聞記事データベースを活用して行った探究活動の成果を発表し、興味・関心から設定したテーマの面白さ、すばらしさ、意義等を他者に伝える。
- ・一人ひとりに役割があることを認識し、目標意識を持たせる。
- ・発表は最後まで話をさせ、最後まで聞く。
- ・質問を積極的に行うように声がけする。

(2) 評価の観点

ア 知識・技能

- 糸魚川市は複数の課題に直面していることを理解している。
- 糸魚川市の課題が相互に関連していることや、それが日本全体の課題であることを理解している。
- 適切な手段により情報収集し、多角的に分析する手法を身につけている。

イ 思考・判断・表現

- 探究テーマを設定し、仮説を立て、検証方法等、探究の方向性を決定している。
- 論理構成に留意し、図や表を用いて探究活動を行った内容をまとめている。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

- 糸魚川市の一員として自己を見つめ直し、地域貢献の方法を模索しようとしている。
- 仲間との協働を通して、異なる考え方を受容、尊重する姿勢を養っている。

(3) 講評

① 糸魚川市教育委員会教育長 鶴本修一様

「今回のテーマである、「私を”ひらく”輪を広げよう！」の意味、内容が伝わってきた。どのグループも、いきいきと学びの成果を発表してくれた。」

② NIE アドバイザー 早川勝志様（県立新潟翠江高等学校長）

「新聞は多くの人がかかわっているものであり、ものの多様な見方が学べる。自分なりの『最適解』を求めて、どのグループもしっかり発表してくれた。」



(4) 当日の様子（動画・画像）

「ゲーム作り」（10 秒）

https://youtu.be/Mq00030j_14

「次の流行はこれだ！」（10 秒）

<https://youtu.be/uJf7zKdZM40>

「小規模サミットに参加して」白馬高校（10 秒）

<https://youtu.be/MxJI6N0bS-Q>



5 おわりに



昨年度の「新聞を作る」実践は大変有意義であった。そのことを踏まえ、今年度は「新聞を使う」をテーマとして、2種類の新聞データベース（「新潟日報データベース」、「朝日新聞 検索くん」）を活用した実践となった。当初は戸惑いを見せていた生徒も、通常のインターネットから得られる情報よりも具体的で深い内容の新聞データベースの価値に気づくようになった。

「総合的な探究の時間」を利用した実践だったため、中には、自分たちの探究テーマと新聞利用の兼ね合いに苦慮するチームも見られたが、大部分の生徒は、探究テーマの真髄に近づくための大きな手がかりとしてデータベースを利用し、自分たちの発表の中に取り入れていた。

また、公開授業（成果発表会）と、その後の研究協議会では、来賓や、同級生、下級生の前でも堂々と自分たちの取り組みをプレゼンし、問題提起や今後のあり方を確かな情報の裏付けと地域との関わりから見いだしていく手法が評価された。これは、NIE事業での新聞無料配付により、学校と地域との関係性に着目し、数多くのデータで過去から学び、現在の探究に活かすというサイクルによるものと考えている。

（松田 彰英）

担当 NIE アドバイザー及び担当新聞・通信社からの一言

1 担当 NIE アドバイザー 新潟県立新潟翠江高等学校 校長 早川 勝志



糸魚川高校は、糸魚川市の支援を受けて「高校魅力化事業」に取り組んでおり、市から支援を受け、コーディネーターも派遣されています。そのため、地元名士を招いての総探発表会は、地域連携活動の成果発表の場として非常に重要です。

今回は従前と趣向を変え、大体フロアに電子黒板7台を配置、2年生108名が33チームに分かれて全員参加で順に発表するという大きな変更を試みました。

結果として、その挑戦は大成功でした。生徒が新聞記事(データベース)を活用、P Pや動画を駆使して、地域課題について彼らなりの解決策を発表する姿に、参観者は皆、大層感心していました。

昨年度まで当該校長であった身としては、魅力化事業3年目の集大成として、このように実ある発表が出来るまでに生徒が成長したことを、本当に嬉しく思うと共に、須戸校長先生はじめ教職員とコーディネーター及び地域の方々の御尽力と御支援に、心からの敬意を表し篤く御礼申し上げます。

2 担当新聞・通信社

産経新聞社新潟支局長 本田 賢一



新潟県立糸魚川高校の研究発表会を見せていただき、高校でのNIEのレベルの高さを感じました。小・中学校の研究発表会では、先生が用意した新聞記事について児童・生徒に考えさせることに主眼が置かれていました。糸魚川高校では、地域の課題を中心に上げたいテーマを生徒が自ら考え、関心が似通っている生徒が集まってグループを作り、関連する新聞記事を集めたり、関連する団体や人を取材したりして情報収集し、プレゼンテーションするという非常に高度なNIEが実践されていました。その背景には、先生、生徒たちのNIEに対する熱い思いがあったように思います。当日は約100人の生徒が33グループに分かれて発表を行いました。高齢化社会を見据えた「旅行に行けない方たちを楽しませる」や、不足する医療従事者に着目した「糸魚川で働こう！」など見ごたえのある発表ばかりで感心しました。

NIEの可能性や進化を感じさせる発表会だったと思います。